警鐘レポート7　小児の急性腹症に関連した死亡
事例6
＜事例概要＞ ・学童期の患児。ヒルシュスプルング病術後。強い腹痛あり、日中に外来受診。 ・超音波検査で腸管内を内容物が往復する像と、X線でニボー像を認めた。鎮痛薬を投与し、浣腸を実施し排便があったが、腹痛が持続するため、再度浣腸を実施し、多量の排便あり。強い腹痛は改善したため、重度の便秘症と診断し、帰宅とした。自宅で意識レベルが低下、心停止となり救急搬送となったが、受診から約12時間半後に死亡。 ・死因は、壊死型虚血性腸炎（巨大結腸による血管閉塞の疑い）。解剖有、死亡時画像診断（Ai）有。